

023 高梨町区有文書と目録作成について

高梨町は千曲川沖積氾濫原の自然堤防上に立地し、東は百々川（市川）扇状地の小山地区の八幡・境沢町、南は百々川を隔てて井上地区九反田・中島町に接し、西に村山町、北に五閑町と接する。

江戸期は、森光政領、松平忠輝領を経て元和元年から須坂藩領となり「天保郷帳」による石高は331石である。

明治10年前後作成と推定される「高梨村誌」（高梨区有）から明治初期の高梨村の概況をみる。

- ①幅員東西516間（約930m）・南北368間（約660m）、面積55町2反
- ②田24町9反・畑22町5反
- ③戸数45戸、男101人・女90人、計191人
- ④産物 米288石・大麦46石・小麦47石・粟27石・大豆29石などのほか、菜種19石・実綿2500斤・繭2200斤・蚕種1550枚など換金産物の生産も盛んである。
- ⑤地味については、「赤砂交じりにして稲梁に適す。水利便なれど水害多し。」とあり、多発する水害に悩まされてきたとある。その後大正14年には周辺地域とともに念願の百々川の河川変更工事を実現した。

1 文書目録作成にあたっては、編さん室の公文書目録の編さん方針に準拠して分類し、その内訳はつぎのようである。

分類項目	史料番号	史料点数
A 土地税制	76	84
B 行財政治安	48	54
C 用水・堤防普請	19	27
D 絵図面	16	23
E 教育文化その他	34	64
総 計	193	252

2 史料目録の作成にあたっては、史料の現状・存在形態を尊重しつつ史料閲覧者の便宜も考慮してつぎのようにした。

- (1) 史料名は原則として史料中に記載された表題を記載したが、無表題史料などは、つぎのように（ ）をもちいて仮表題を作成し掲げた。

（未之引高覚） （11ヶ村と仙仁村内山山境取極図面）

- (2) 「一札之事」、「覚」のみで内容未記載の史料については、つぎのように（ ）内に内容説明を記載したものもある。

一札之事（村送り状） 覚（午之引高覚）

- (3) 年月日の記載はないが、史料内容や干支、出所などから年月を推測できる場合は、（天保8.10）酉之引高覚 のように（ ）で記した。

(4) 史料形態については、つぎのように略記した。

横（横帳）、縦（縦帳）、紙（一紙）、綴、括など

史料の整理、文書目録の作成は、須坂市誌編さん室の宮澤慶男が分担し作成しました。

2009年4月30日 須坂市誌編さん室